

INFORMATION



《ご案内》

■第15回遺跡発表会を開催しました

7月16日(土)に佐倉市中央公民館で開催した遺跡発表会は、暑い中200名を超える来場者がありました。今回は国立歴史民俗博物館教授西本豊弘先生を講師に迎え、「馬場遺跡第5地点241号土坑から見た縄文時代の動物利用」という題名で講演をしていただきました。



西本豊弘先生による講演

《速報》

■佐倉市吉見台遺跡(D地点)出土「長頸瓶」



出土した長頸瓶

吉見台遺跡(D地点)は佐倉市の南西部に位置しており、調査の結果、縄文時代～中世までの遺構が見つかっています。

その中で、今回は方形周溝状遺構から見つかった灰釉陶器について紹介します。方形周溝状遺構とは、奈良・平安時代につくられた埋葬施設の周りを溝で方形に廻らせた墓です。灰釉陶器は、北側の周溝内で口縁部から頸部の部分が、南側周溝

内で胴部が出土しています。頸部には二本の平行沈線が廻っている点が特徴です。また、接合した結果、焼成段階で口縁部から頸部がゆがんでしまっていることがわかりました。形態と胎土などから、8世紀後半に猿投窯(現在の愛知県)で作られたものと考えられます。猿投窯で作られる陶器などは、主に都へ供給されるもので、印旛地域で出土することは珍しい資料です。おそらく被葬者が地域の有力者であったと推測されます。

《発掘中の遺跡》

11月以降の予定

- 〈佐倉市〉曲輪ノ内遺跡(近世)
- 〈栄町〉岩屋古墳(古墳時代)
- 〈富里市〉駒詰遺跡(古墳時代～近世)

《室内作業》

〈本部統合事務所〉

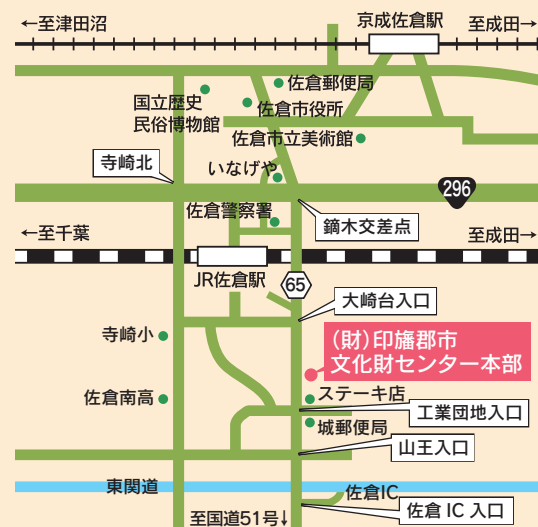
佐倉市春路1-1-4 TEL. 043-484-0126(代)
 白井屋敷跡遺跡・吉見城跡(佐倉市 縄文～近世)
 東作遺跡(四街道市 中世～近世)
 駒詰遺跡(富里市 古墳時代～近世)
 荒野前遺跡(印西市 旧石器時代)
 岩富明代台西遺跡(佐倉市 古墳時代・中世)

※上記の発掘現場、室内作業は見学できます。ご期待に添えない場合もありますので、かならず、事前にご連絡ください。詳細は本部へお問い合わせを!

《移転のお知らせ》

平成23年9月17日をもって(財)印旛郡市文化財センターは、昭和59年のセンター設立以来27年間所在した佐倉市鎗木町から佐倉市春路に移転いたしました。

また、新展示は平成23年12月を予定しています。ぜひご来場ください。



がんばってます!

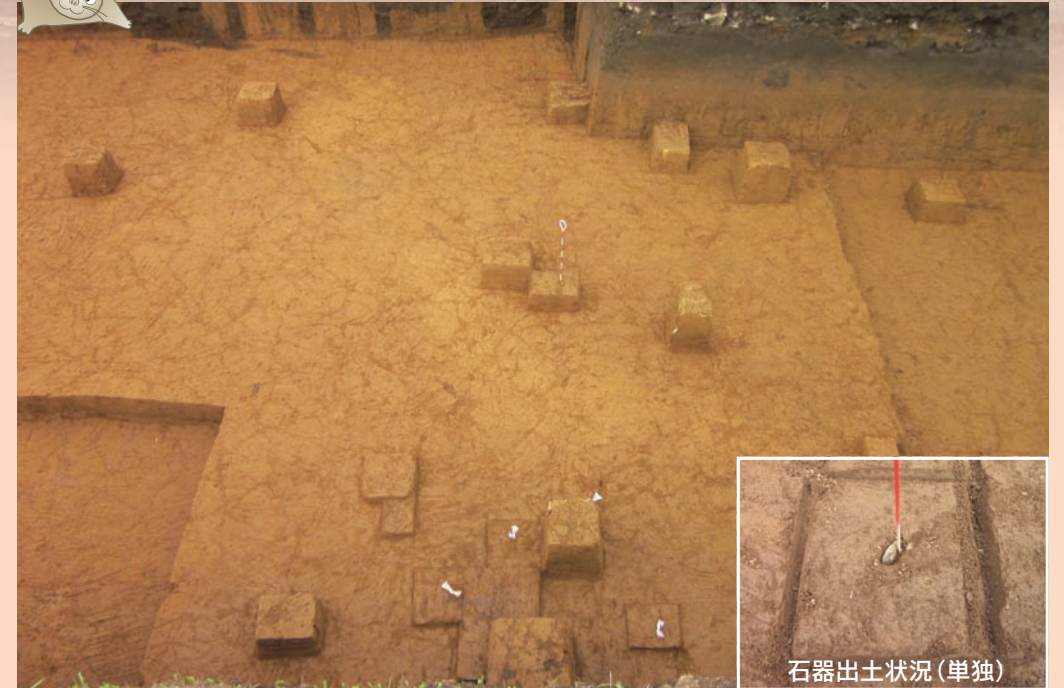
こっちゃんもやってます!

発行・編集 財団法人 印旛郡市文化財センター 〒285-0814 千葉県佐倉市春路1-1-4 ☎043(484)0126(代) FAX043(485)9871 平成23年10月28日
 http://www.inba.or.jp (ホームページ) http://www.inba.or.jp/l/

FIELD BOOK



こうやまえ 印西市 荒野前遺跡第2次



旧石器時代石器出土状況



遺跡位置図(S=1/25,000)



出土石器

荒野前遺跡は、北総線の印旛日本医大駅から南西へ約200mの場所に位置し、印旛沼に注ぐ師戸川とその支流によって開析された標高約29mの台地上に立地します。周辺では、多くの遺跡が確認されており、後期旧石器時代と呼ばれる約35,000～12,000年前の人々の生活痕跡も見つかっています。今回ご紹介するこの荒野前遺跡においても、後期旧石器時代の遺物が発掘調査を通して発見されました。

発掘調査は、平成23年2月に確認調査を実施し、その際、地表面より50～60cm掘り下げた地中から石器が出土しました。石器は、鹿児島湾の始良カルデラの大噴火によって日本列島に広く降り積もった約25,000年前の火山灰を含む土層より下からの出土であったことから、後期旧石器時代のものであることがわかりました。そして、確認調査の結果を受けて平成23年6月に本調査として第2次調査を行いました。

第2次調査の結果、確認調査で石器が出土した位置の周辺から合計約50点の石器が次々と見つかりました。これらの石器の種類には、石核・剥片・二次加工剥片・チップ・破片があり、石器材料には、チャート・頁岩・凝灰岩・安山岩・流紋岩・黒曜石等の岩石が用いられていました。特に、石器材料の岩石の特徴について注目すると、いずれもこの地域周辺では採取困難なものが使用されています。このことは、本遺跡で見つかった石器を製作・利用した人々は、以前に石器材料が採取できる地域で活動しており、食料を得るために獲物を追って移動してきた等の可能性が考えられます。

現時点では詳細は定かではありませんが、今後整理作業を通し周辺や他地域の状況を検討していくことで、より具体的な行動が明らかとなっていくことでしょう。



四街道市 東作遺跡

わがった!

3号堀 五輪塔(火輪)出土状況

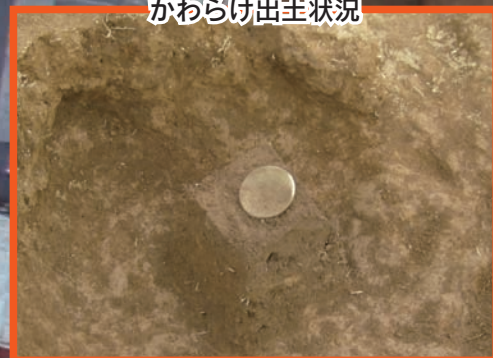


地下式坑

3号堀



かわらけ出土状況



土塁

2号堀

1号堀

171号土坑

167号土坑

墓域

15号土坑

地下式坑

土塁

2号堀 五輪塔(空風輪)出土状況



2号堀 五輪塔(地輪)出土状況



銭貨(永楽通宝)出土状況



火葬土坑



東作遺跡は、鹿島川とその支流によって開析された標高約30mの台地上に所在します。調査区域は中世城郭である中台城跡の一部であり、周辺には調査が実施された池ノ尻館跡や中野戸崎砦跡など、多くの小規模な中世城館が確認されています。今回の調査の結果、土坑、土坑墓、火葬土坑、地下式坑、掘立柱建物跡、堀、土塁、柵列、台地整形区画などの遺構が確認され、土師質土器、陶磁器、銭貨、五輪塔、貝などが出土しています。これらの遺物から本遺跡は15世紀中頃～16世紀中頃を中心とした時期の遺跡であることがわかりました。調査区西側の台地整形区画には、平面が方形で土坑墓と考えられる167・171号土坑が存在し、中から銭貨(永楽通寶)やかわらけが出土しました。それ以外にも火葬土坑である15号土坑が確認され、この区域で墓域を形成していると思われます。

次に、1号堀は北側半分の堀底が間隔をあけて障壁が設けられている畝堀であるのに対し、南側半分では断面形態がV字を呈する薬研堀です。その掘り方が変わる部分には、地下式坑が確認されています。2号堀もまた畝堀ですが、東側は障壁の間隔が狭く、西側は広がっています。そしてその広い部分を埋めるように土塁が構築されています。3号堀では、堀が途切れる部分に地下式坑があり、1号堀も当初地下式坑までの長さだったものが、後に延長された可能性が考えられます。本調査区隣接地の北側には約50×40mほどの規模で、堀と土塁で方形に区画された中台城跡の主郭が存在します。その東側には枡形の土塁からなる虎口(出入口)があり、主郭と2号堀の間を通って南側に出る通路があったと考えられます。本遺跡を含む中台城跡は、白井城と小弓城を本拠地としていた原氏が両地域を結ぶ交通路として確保するための小規模城郭の一つと考えられます。